

ピック地区によってマラーとル・ペルティエの 霊に捧げる祭典でなされた演説

田川光照 訳

『ピック地区によってマラーとル・ペルティエの霊に捧げる祭典でなされた演説』は、1793年10月9日に催されたマラーとル・ペルティエの慰霊祭で朗読された追悼文であるが、それに先立つ9月29日に原稿がピック地区総会に提出され、総会はこれを印刷し、国民公会、すべての県、軍隊、パリの憲法上の諸機関、他の四七の地区、ならびに諸人民結社に送付することを決定している。1793年7月13日に、入浴中のマラーがシャルロット・コルデーに短刀で刺殺されたことはフランス革命中のエピソードとしてあまりにも有名である。ル・ペルティエもマラーと同様モンターニュ派に属し、1793年1月、ルイ16世の処刑を要求し、同月21日の国王処刑の前夜（20日）国王の親衛隊員の一人によって暗殺された。死の直前、「死んでも満足だ、私の死が自由のために役立つように」と言ったといわれる。

凡例

- 一、翻訳には、Œuvres complètes du Marquis de Sade, en 8 vol, Cercle du Livre précieux, 1966-1967 の第11巻に収められたものをテキストとした。
- 二、原文中のイタリックはすべて傍点で示した。

三、訳注は、本文中にはアラビア数字で示し、巻末に送った。

ピック地区によってマラーとル・ペルティエの 靈に捧げる祭典でなされた演説

(1793年7月29日)

市民の皆さん

真に共和主義を愛する心の持ち主にとって最も大切な義務は、偉大な人々に感謝の意を表明することです。この神聖な行為から、国家の維持と栄光に必要なあらゆる美德が生まれるのです。人間は褒めたたえられることを好むものであり、功績に称賛を惜しまないあらゆる国民は、常に、称賛に値したいという願望を持つ人々を自分たちのうちに見いだすことになるでしょう。この高貴な報酬にあまりにどん欲であった古代ローマ人たちは、厳しい法律によって、高名な人が死んでからその人を褒めたたえるまでの間に長い期間を置くことを要求していました。そのような厳しさはまねないでおきましょう。私たちの美德熱を冷ましてしまうかもしれないからです。ささいな不都合しか持たず、非常に必要な成果をもたらす情熱を押し殺さないようにしましょう。フランス人よ、あなたがたの偉大な人々を常に尊敬し賛美してください。このかけがえのない精神の高揚は、あなたがたフランス人のうちに偉大な人々を増加させ、万一後世の人々があなたがたの何らかの過ちを非難したとしても、あなたがたは感受性を言い訳にできるではありませんか。

マラーよ！ ル・ペルティエよ！ 今君たちを褒めたたえている人々については、そのような心配の必要はありません。

そして来るべき諸世紀の人々の声は、今日隆盛を極める世代が君たちに払っている敬意を大きくするばかりでしょう。

すでに記憶の神殿に安置された自由の崇高な殉教者たちよ。その神殿から、常に人類によって敬われる君たちは、人類を照らす恵みの星辰のように、人類を見下ろすことでしょう。そして、その神殿から、人間たちに等しく有益な星辰たる君たちは、ある者たちのうちに生のあらゆる宝物の源を見いだすと同時に、他の者たちのうちにあらゆる美德の幸せなモデルを見いだすことでしょう。

運命の驚くべきいたずらと言うべきか、マラーよ、君の情熱的な愛国心があればほどの熱意をもって暴君たちと戦ったまさにあの暗い洞の奥から、フランス精神がこの神殿に場所を決め、私たちは今日こうして君に敬意を捧げているのです。

利己主義が人間のあらゆる行為の第一の基礎であると、言われています。個人的な利益を第一の動機としないような行為は何もないと、断言されているのです。この残酷な見解を抛り所にすれば、どんな素晴らしい事柄も、恐ろしい誹謗によってその功績は無に帰してしまいます。おお、マラーよ、君の数々の崇高な行いはどれほどまでに君をこの一般的な法則から免れさせてくれたことでしょう！ 君が人々との交際から遠ざかり、人生のあらゆる喜びを断ち、いわば生きながら墓場へと追いやられていたのは、個人的な利益のためではありません。人類を照らし、同胞の幸福を確かにするためにほかなりませんでした。すべてに対して……君をやっつけるために率いられた軍隊に対してさえも、勇敢に立ち向かう勇気を

君に与えたのは、完全な無私無欲、まったく純粋な人民への愛、いまだに模範となっている熱烈な公民精神以外のなにものもでもありませんでした！

スカエヴォラ¹よ、ブルトゥス²よ、君たちの唯一の功績は、二人の暴君の命を絶つために、瞬時武器を手にしたことでした。君たちの愛国心が光り輝いたのは、せいぜい一時間でした。それに引きかえ、マラーよ、君ははるかに困難な道を通して、自由な人間の生き方を貫いたのでした！ 目的地に達するまでに、どれほどのいばらが君の通り道を妨害したことでしょう！ 君が自由を論じたのは暴君たちのまっただ中においてでした。まだほとんどなじみのなかったこの自由という女神の聖なる名を私たちがまだ知らないうちに、すでに君はその女神を崇拝していました。マキャヴェリの短刀がいたる所で君の頭上でうごめいていましたが、君の高貴な額はそれによって損なわれるようには見えませんでした。スカエヴォラとブルトゥスはどちらも暴君を脅かしました。その二人よりもはるかに偉大な君の魂は、世界の負担となるすべての者を同時にいけにえとすることを望みました。それなのに、隷属した人々は君が流血を好んでいると非難しました！ 偉大な人よ、君が流したいと思っていたのは彼らの血でした。君がその流血を惜しまなかったのは、人民の血を流させないようにするためにほかなりませんでした。あれほど多くの敵を

¹ 前2世紀のローマの政治家。スキピオ・ナシカがグラックスの仲間に対してとった暴力を承認した。

² 前84頃-43。ローマの政治家、軍人。カエサルの暗殺者。

もちながら、どうして君が死なずにすんだでしょうか。君は裏切り者たちを名指しにしていました。復讐が君を襲わずにはすまなかったのです。

内気で穏やかな女性よ、誘惑によって研ぎ澄まされた短刀を、どうしてあなたのきゃしゃな手が握ることができたのでしょうか……。ああ！ あなたがた女性がこの人民の真の友の墓に急いで花を捧げに来てくれることで、大罪があなた方のうちの一人の手によってなされたことを私たちに忘れさせてくれます。男女いずれでもないあの両性を混ぜ合わせた怪物に似たマラーの残忍な暗殺者は、男女両方を絶望させるために地獄から送り出されたのであり、直接には男女いずれにも属していないのです。喪のベールが永遠にその暗殺者についての記憶を覆ってしまわなければなりません。とりわけ、厚かましくもなされているがごとく美しい魅惑的な図柄でその肖像を私たちに示すようなことは、やめていただきたい。お人よしすぎる画家たちよ、この怪物の顔立ちを壊し、転倒し、醜くしていただきたい。さもなければ、地獄の神タルタロスの復讐の三女神フリアエに囲まれている姿を、私たちの憤慨した目の前に示していただきたい。

穏やかで感じやすい心を持った皆さん！ ル・ペルティエよ、このような情景に不快になった思いを、君の美德でつかの間でも和らげていただきたい。国民教育についての君の素

晴らしい諸原則³が引き継がれていくな、いつの日か、私たちの嘆きの種となっている大罪が私たちの歴史を傷つけるようなことはなくなるでしょう！ 少年少女ならびに人間の友よ、君の政治生活が人民の代表という崇高な役割に完全に捧げられているとき、私は好んで君についていきました。君の最初の意見は、それなくしては地上に自由が存在しなくなるあの出版の自由を、私たちに保障することを目指すものでした。愚かな空想でしかない偏見によって当時君がおかれていた身分の偽りの輝きを軽蔑して、君は、人間の間に違いがあり得るとすれば、その違いを作り出すにふさわしいのは美德あるいは才能だけであるということを、信じ、公にしました #。

暴君たちの容赦ない敵である君は、厚かましくも一人民全体の死をたくらんだ暴君の死に勇敢にも票を投じました \$。一人の狂信者が君を襲い、その人殺しの剣は私たちすべての心を引き裂きました。彼の自責の念が、私たちの復讐をしてくれました。彼自身が自らの死刑執行人となったのです。それで充分ではありませんでした。極悪人め！ 私たちがなぜお前の霊をいけにえにできないことがあるのか！ ああ！ お前の判決はすべてのフランス人の心の中にあるのだ。市民の皆さん、もし皆さんの中に、愛国心がこのような自由の友に抱くべき気持ちにまだ充分なっていない人々がいるならば、

³ イデオロギー系の知育教育に反対して訓育を強調したル・ペルティエの遺稿『国民教育案』は、モンターニュ系教育案として脚光を浴び、1793年7月13日にロベスピエールによって国民公会で朗読された後、8月13日に可決され、法令として発布された。しかし、この法令は、モンターニュ派の没落によって実施されずに終わった。

ル・ペルティエの最後の言葉に一瞬でも目を向けていただきたい。そうすれば、愛と畏敬の念とに満たされて、かくも素晴らしい生を奪った反逆者についての記憶に由来する憎しみをかつてないほど感じることでしょう！

フランス人の唯一の女神、崇高な聖なる自由よ、あなたの最も忠実な二人の友を失ったことに対して、私たちがいま一度あなたの祭壇の足もとに何滴かの涙を流すことを許してください。あなたを囲むナラの葉の輪飾りに、イトスギを巻きつけさせてください。その無念の涙は、あなたの香を清めこそすれ、消してしまうようなことはありません。さらにその涙は、私たちの心があなたに指し示すすべての人々に対する尊敬のしるしなのです……。ああ！ 涙を流すのはやめましょう、市民の皆さん！ 私たちが涙を流しているあの有名な人々は、息をしているのです。私たちの愛国心によって生氣を取り戻しているのです。あの人々が私たちの真ん中にいるのが、私には見えます……。私たちの公民精神が彼らのために執り行っている祭礼に、彼らが微笑んでいるのが、私には見えます。昔のローマよりもはるかに素晴らしいパリが、才能ある人々の避難所となり、暴君たちにとって恐怖となり、芸術の神殿となり、すべての自由な人々の祖国となるであろう平穏な日々の夜明けを、彼らが告げるのを私は聞くことができます。世界の端から端まで、すべての国民がフランス人民と結ばれる光栄に浴したいと望んでいます。私たちの衣装や服飾だけを外国人に提供するという浅薄な取り柄にかえて、揺れ動く世界に私たちが与えるのは、法、模範、美德、そして人間となるで

しょう。そして、もし混乱に陥った世界が、その世界を動かしている高圧的な法に譲歩して、崩壊し……溶解するようなことにでもなれば、私たちが香を捧げている不滅の女神、地球に最も役立った人民が住んでいたことを未来の人類に示したくてうずうずしている不滅の女神が、自然によって再創造された新しい人類に提示するのは、フランスをおいてほかにないでしょう。

起草者 サド

ピック地区の総会は、この演説の信条と力強さを称賛し、これを印刷に付し、国民公会、すべての県、軍隊、パリの憲法上の諸機関、他の四七の地区、ならびに諸人民結社に送付することを決定する。

単一にして不可分なるフランス共和国第2年、1793年9月29日、総会にて決定

委員長 ヴァンサン
書記 ジラール
マンジャン
パリス